

本年のまとめと来年への希望 その3

1 現役生たちへ

3年生は、あと20日あまりの日を全力で駆け抜けるがよい。問題は、そのあとだ。そのあとの結果に右往左往しないで、2次試験や私立に向かう気構えを今からシミュレーションしておくべきである。

人生、うまくいくこととうまくいかないこととは五分五分の確率だが、何とかしてその確率を8割にしてみても、残りの2割に当たってしまえば、うまくいかない中で逆転していかなければならないのだ。

だからこそ、うまくいったところで、最後の最後まで分からない。そう腹を決めて向かっていくがよい。

2年生や1年生には、始めるなら今の内と伝えよう。それこそ、自分の教養を深くしながら、読書の幅を広げつつ、受験に太刀打ちできるように基礎基本の定着と過去問の研究と応用問題の積み上げなど、やるべきことは山積している。小手先の受験では太刀打ちできないぞ。ほんものの力が試されるので。覚悟してもらいたい。

2 浪人生たちへ

1年前を思い出してごらん。不安だらけだった君たちがたどった1年の重みは、地球よりも重いのだ。この先、何年も、この積み重ねをしていくことになるのだが、今は、1年の重みを武器に、再度のチャレンジを潜り抜けていくのだ。扉をこじ開けていくのだ。

この試みは、経験した者にしかわからない重みだ。だからこそ、決して臆することはない。胸を張って、闘っていけばよい。

積み重ねてきた知恵の数々がその場その場の自分を救ってくれるはずである。1年間の様々な経験則を武器にして、度胸をもって進んでもらいたい。

野球部の木村監督のグラウンドコート首の背には、「忍耐」の二文字が刺繍されている。様々な困難を潜り抜けながら、この一言に集約した己のありようを言葉ではなく姿で語っている。

耐えたものにしかわからない喜びはやがて訪れる。間違いのない真実を前に、同じチャレンジを繰り返して自らを鼓舞している。私達も、その日まで続く決心を持続させていこう。